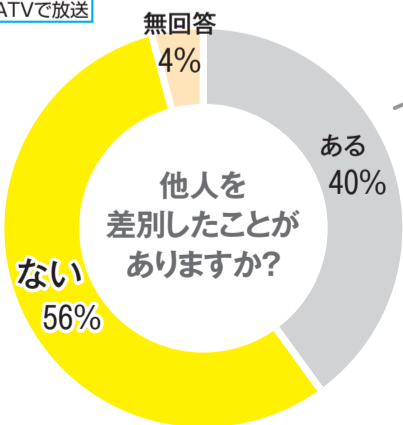


普通って何だろう

特集 無意識の偏見

多くの人が行き交う本厚木駅北口

あつき 元気Wave
12/1~CATVで放送



回答者1215人
市人権問題市民意識調査(2019年3月)

差別した内容(多い順)

- ①宗教②容姿③学歴④人種・民俗・国籍・出身地⑤職業・雇用形態⑥思想・信条⑦病気・障がい⑧収入・財産⑨年齢⑩性別
- 《その他》家柄、独身、一人親・両親がいないこと、セクシャル・マイリティー、子どもがいないこと、同和問題など

11月公表

多様化する人権問題に対応

厚木市人権施策推進指針

検索

市民協働推進課 ☎25-2215

私たちの日常は、多様な価値観や境遇、事情を抱えた人たちと関わり進んでいきます。日々の暮らしの中で、何げなく使う「普通」という言葉。皆さんは、普通とは何か考えたことがありますか。学校、職場、家庭、地域など、さまざまな場面で関わる相手の中にある普通は、自分と同じものでしょうか。

社会には、多くの人が思う普通と比較され、無意識にその普通を求められることに違和感を覚え、自分らしさを出せないでいる人がいます。

12月4~10日は、相手の気持ちに寄り添う大切さに目を向ける人権週間です。特集では、市内で暮らす人たちの声や姿から、普通とは何か、相手の普通を思いやる大切さを考えました。



ノアさん・仮名(25・市内在住) 出生時に割り当てられた性別は女性だが、体と心の性が一致しない性同一性障害。社会的には男性として過ごすことを望むが、今は性別を決めないことを選んでいる。

母はきっと「普通の子に育てな ちゃ」と考えていた

自分は性別を男女どちらにも決めない「クエスチョニング」(左記参照)で、性同一性障害でもあります。違和感を例えるなら、脱げない着るみを着ている感覚。本当の自分が中にあるのに外からは見えず、着ぐるみとして過ごさせられる息苦しさ、戸惑いが常にある感じです。違和感に気付いたのは、中学生の時。制服や体育の授業など性別ではっきりと分かれるようになって初めて、どちらかに所属させられることへの強い苦痛を感じました。女性ではないのに女子生徒用の授業を受けなければいけないのが悔しくて、教室で大泣きしてしまっただけです。高校に進学しても、事あるごとにグループ分けがある学校という場所になじめず、徐々に休まがちになりました。その頃、親に自分の違和感を打ち明けたけれど「勘違いだ」と一蹴されました。特に母からはその後も「女の子ならだから座るときに足を開かないで」と叱られました。かたくなな母に自分も感情的になり、衝突が絶えなくなりまじりました。当時は学校にも家にも居づらく、居場所を必死で探していたことを覚えています。17歳くらいの時、母との大げんかの果てに家出して街をさまよひ、地域の相談センターに駆け込みました。でも、相談員さんは「親御さんが心配しているから早く帰った方がいい」と一点張り。その人も自分や家族を案じて一生懸命だったのだと思いますが、自分の居場所はどこにもないんだと途方に暮れました。

私と誰かの“普通”のあいだ

【ふ-つう】どこにでも見受けられるようなものであること。なみ。一般。(出典：広辞苑第六版)



生まれ持った才能や育った環境、時代の情勢や偶然の出会い。人を形作る数々の要素は不規則で、複雑で、多くは選ぶことができません。そんなばらばらの個性を持つ皆さんの「普通」を考えた経験と「自分らしさ」を教えてください。

セクシャル・マイノリティー(性的少数者)って?

多くの人には体の性(性染色体や内外生殖器)と心の性(性自認)が一致し、好きになる性(性的指向)は異性です。でも、この枠組みに当てはまらない人が国内でおよそ5%いるといわれ、その人たちをセクシャル・マイノリティー(セクマイ)と呼びます。「LGBTQ」はセクマイをおおまかに分類した呼び方で、これに当てはまらない人もいます。

	体の性	心の性	好きになる性	
L (レズビアン)	♀	♀	♀	女性を好きになる女性
G (ゲイ)	♂	♂	♂	男性を好きになる男性
B (バイセクシャル)	♀	♀	♀♂	女性も男性も好きになる人
T (トランスジェンダー)	♂	♀	♀♂	体の性と自認する性が異なる人
Q (クエスチョニング)	♂	?	?	心の性や好きになる性が定まらない、決まらない、分からない人

市民の皆さん167人にアンケート(10/17~31) 偏見を感じたことありませんか?

小学生の頃、髪の色が薄く「外人」とからかわれた(30代女性) 容姿

職場で「経験が浅いから君には無理」「若い人にできっこない」と言われた。結果を出したら態度が変わって、嫌な気持ちになった(30代男性) 年齢

難聴なので「反応が遅い」と言われた(60代男性) 体

不妊で悩む夫婦に「考え過ぎが原因だろう」と言ってしまったことがあり、とても後悔した(40代男性) 学歴

「体が大きいのに、難しいような本なんて読むんだ」と言われた(40代男性)

ゆとり世代なので「ゆとりは〜」と決めつけられることがある。いつ生まれてもちゃんとしている人はしている、していない人はしていないと思う(20代女性)

大学を中退したことや、社会経験がないことで、頭が悪いと思われた(20代男性)



ボランティアで子育てサロンやコミュニティーカフェを手伝っています。人とつながりが私の元気の源。催しを楽しみながら人と接していきたくて、生きたらいいなと思う(50代女性)

誰でも、苦手や不足を抱えている

「そういうものだから」という風潮を引き継がない

柴田 靖子さん(41・南町)

以前、職場の親睦会で上司に「女性は役職者の隣に座って、料理の取り分けやお酌をして」と言われたことがあります。気配りのできる人になってほしいという思いで言ってくれたのかも知れませんが、親睦を深める会なのに「女だから給仕?」と、もやもやとした気持ちになりました。私は、性別で役割を割り当てる古い風潮を、次の世代に引き継ぎたくないと思っています。1歳の子どもを注意するときは「そういうものだから」ではなく、きちんと理由を説明するよう心掛けています。



私は縁あって結婚・出産しましたが、「女性の自己実現」良き妻・良き母」という考えだけではないと思います。私もいつか、10代の頃から大好きで資格も取ったネイルアートを仕事にすることが目標です。

立場ではなく、人として好きかどうか

サハ・ビブルカンテさん(38・栄町)

15年ほど前、電子工学を学ぶためにバン格拉デシュから来日しました。初めは、生魚を食べる習慣や、抑揚で意味が変わる単語など、母国との違いに戸惑ったことがたくさんありました。厚木で暮らし始めて間もない頃、同郷の先輩に連れられ、多国籍の人が集まる交流会「インターナショナルティーサロン」に参加しました。最初は日本語が話せず寂しかったけれど、多くの日本人のおしゃべりに触れることで言葉が増え、友達も増えました。今でも、新しい人や文化との出会いに喜びを感じます。自分の世界が広がるのはとても楽しいです。習慣の違いは、もうあまり驚かないし気になりません。国籍や立場よりも、一人の人間として好きかどうかの方がずっと大切です。



人は順番を付けたり分類したりしながら生きるものなので、偏見は決してなくならないと思う(50代女性)

■人権擁護委員の無料相談■ 差別やいじめなど、人権に関する問題を相談できます。《日時》12月4日、①9~12時②13~16時 《場所》市役所本庁舎。☎当日直接窓口へ。☎市民協働推進課☎225-2215

空に憧れて 空に憧れて

ディスレクシア

文字の読み書きだけに困難が生じる学習障がい。読めない、読むのが遅い、文字・行間が狭いと読みづらしい、読むと疲れるなど、人により症状が異なる。

「普通」に学校へ通えなかった少年は今、国内屈指のドローンパイロットとして世界の空へと羽ばたいている。文字の読み書きが困難な障がい「ディスレクシア」がありながら、夢に向かう高梨智樹さんと、共に進む人たちの歩みを追った。

「話してみると、理解力の高さに驚いた」。そう話すのは、市立清水小学校校長の富岡薫先生。高梨さんが小学5・6年生の時に、戸室小学校で担任を務めた。学校にほとんど行けていないため、学習の積み上げがなく、読み書きも困難な面がある。と知らされていた。しかし、高梨さんと接するうち「学習が定着しないのは、他の原因があるのでは」と考えるようになった。学習障がいの勉強会などに参加していた富岡先生。校庭の上空を飛ぶヘリの音を聞き機種を言い当てたり、テストの問題を読んで伝えると満点を取ったりする姿に、思い当たることがあった。ディスレクシア。富岡先生は、秦野養護学校の先生に巡回相談で様子を見てもらい、助言を受けて接し方を見直した。授業では、自習や板書を写す時間など、折を見て高梨さんに寄り添い、言葉で内容を伝える。「自分ではできる」と思っていた。お母さんも、教科書にふりがなを振るなど、愛情を注いでおられた。

卒業文集は、高梨さんの言葉を富岡先生が書き出して見本にし、拡大した原稿用紙へ本人が手書きした。文集には、手書きした大きな文字を縮小して載せた。富岡先生は、卒業式でうれしそうにしていた高梨さんの姿を今も忘れられないという。

変わる風向き

高梨さんがディスレクシアの診断を受けたのは、秦野養護学校の中学部3年生の時。「障がいと分かって、気持ちがすっきりした。努力が足りないと思っていたし、そう言われたこともある。工夫次第で、補えることもあると考えられるようになった」。ドローンでの活躍が始まったのも、ちょうどその頃だった。2年生の時、インターネットの動画で見たドローンに興味を持った高梨さん。家族に相談して海外から機体や部品を購入し、近所の空き地などで飛ばしていた。「ラジコンのヘリを飛ばしていたので、操縦に難しさは感じなかった。上空からの映

像を見ながら飛ばすのはウキウキした」。ドローンレースの存在を知り、出場を始めて3カ月後、3回目のレースで高梨さんは優勝。国際大会に日本代表として招待された。人と関わることに苦手だった高梨さん。レースや練習会場では、周りに自然と人が集まり、言葉を交わすようになっていった。3年生になり、高校進学を望んでいた高梨さんに新しい出会いがあった。担任の薦めで相談に行った東京大学先端科学技術センター。障がいがある人の進学・就労支援などに取り組む「DO-IT Japan」(左欄参照、以下DO-IT)の情報提供を受け、高校受験に臨んだ。試験の前には、DO-ITの助言を受け、障がいの診断書に加え、学校や家で実践してきた読み上げの経歴を学校に伝え、代読などの代替手段の許可を得て合格を果たした。入学後は音声教材を使い、パソコンの利用やテストデータの電子化などの配慮を受け学校生活を送った。「DO-ITに参加して、自分の苦手なことをどう補えば目標を実現できるか考えて実行できるようになった」と高梨さんは振り返る。

視界の先にあるもの

高校卒業と同時に、高梨さんはドローンを使った撮影などの会社を起業した。父の浩昭さんは、経理や価格交渉、撮影補助などを担うため、勤めていた会社を辞めた。「決断が必要だったけれど、軌道に乗るまでは自分がサポートしようと思った」と仕事、レースに同行している。高梨さんは今年6月、人物に密着する民放のテレビ番組に出演した。幼少期に関わった竹居田さん、富岡先生には「見てほしい」と知らせがあった。番組を見た富岡先生は「家族をはじめ多くの人が彼の良い所を見て関わってくれた。人に恵まれた」と目を細めた。竹居田さんは「本当にたくましくなっていた。うつむく姿も見ていたから。うれしいです」と声を詰まらせた。

ドローンで活躍の幅を広げる高梨さん。今も見据えている夢は、ドクターヘリのパイロットだ。中学生の頃、身近な人の見舞いで通った大病院で目にしたドクターヘリへの憧れは今も変わらない。同じ障がいがあっても免許を取った人が海外にいるから、できないはずはない。今やるべきことを積み重ねます」。澄んだ青空のような笑顔で話す高梨さんの視界は、ドローンが映し出す映像のように、遠く先まで開けている。

小さい頃からの夢なんです ドクターヘリのパイロットになるのが



ドローンパイロット 高梨 智樹さん(20・戸室)
【プロフィール】1998年生まれ。2016年に26カ国66チームが参加した国際レース「World Drone Prix in Dubai」に日本代表として出場。18年にドローン専門店「スカイジョブ」を父と設立。市民リポーターとして空撮なども担当



大会で高梨さんをサポートする父の浩昭さん レースで使うモニター付きゴーグル

他者への想像力がある社会に

東京大学先端科学技術センター
人間支援工学分野准教授
DO-IT Japan ディレクター
近藤 武夫さん(43)

DO-IT Japanは、障がいのある子どもたちが、夢に向かう過程で直面する社会的障壁を共に乗り越える活動をしています。大切にしているのは、子どもたちの自己決定と自己権利擁護です。私たちが促すのではなく、本人がやりたい事を決め、実現のために必要な配慮や支援を自ら求めていく。そこに、合理的配慮に欠ける障壁があるのなら、一緒に考えクリアしていくことが、社会全体の変革にもつながると信じています。

以前は、平等という言葉の下に、試験は同じ条件で受けるのが当たり前で、問題の音声読み上げや、時間延長などは認められませんでした。しかし、それでは障がいがある子どもたちの、試験への参加の平等が損なわれます。試験の本質は、問題の内容を理解する力と、解答できる知識があるかを測ること。参加の手法は、合理的配慮として多様であるべきです。

2016年4月に、障害者差別解消法がスタートし、法的にも合理的配慮が求められるようになりました。誰もが生きやすい社会の実現には、他者と接するとき、自分の価値観だけで相手を見ずに、想像力を働かせることが必要です。合理的配慮は、想像力から生まれます。多様な価値観に触れ、それを許容する寛容さが社会全体に求められているのではないのでしょうか。



広報あつぎを音声で

1 インターネット
「マイ広報あつぎ」に
アクセス



2 スマートフォンや
パソコンの
読み上げ機能
などを使用

優秀賞

「僕が感じてきたこと」

依知中学校1年 中川 太陽さん

概要

アメリカ人の父を持つ中川さんは、日本の学校と米軍基地の二つの環境で交互に過ごすうち、自分の見た目が普通な時と、普通ではない時があることに気付く。日本とアメリカの文化の違いから、違う見た目への特別感の原因を考えた中川さん。東京五輪・パラリンピックで多くの外国人が日本を訪れることをきっかけに、見た目だけで人を判断しない社会になっていくよう願いを込めている。



学校ではバスケットボール部の仲間と楽しく練習に励む

筆者の声

「普通じゃないと思われている」と気付く瞬間は、切ない

年齢が上がるにつれて周りも違いを受け入れてくれるようになりましたが、小さい頃の方が「みんなと同じじゃないとダメ」という雰囲気を感じました。悪意がないからこそ、深く考えずにからかってくるのかもしれない。それでも、違うことが普通な文化と、違うことは普通じゃない文化を交互に体験していると、意識の違いを感じます。最近では、外国人を受け入れる環境が進んできました。日本人でも外国人でも、何も変わらないと僕は思います。



「こっちは僕の見た目は、いたって普通だ」ということです。

僕

は黒人のアメリカ人を父に持つハーフです。見た目は髪にカールがかかり肌の色も少し黒いです。今の時代、日本でもハーフである事が特別なことではないと感じる事ができるくらいに周りにも他の国のハーフの友達や外国からの転入生もいるので、自分だけが特別違う人だと思ふ事も少ないけれど、それでもやはり、この日本の単一文化だなあと感じる事は多いです。

一番強く思うのは、日本には日本人しかいないから、少しでも違う見た目の人に対して特別感があるという事です。僕は幾度となく幼い頃から髪の毛のカールや肌の色のことからかわられていました。僕の父は米軍で働いているので、軍の基地の中のバスケットボールコートに入っている練習することもありますが、そういう時に思うことは、ここには僕の見た目は、いたって普通だということです。チーム内には白人もいれば黒人もいればアジア人もいます。髪が金髪の人もいればアフロの子もいればコンロウを編んでいる子もいます。誰も僕を少し肌の色が黒いとか、髪にカールがあるからとイジってくる友達もいません。

その二つの環境を交互に体験しているとこれだけ外国人を受け入れる事にオープンになった日本でも、まだまだハードルがあるなと感じてしまいます。人と同じであることが一番良いとされる風潮だなど思っています。でも逆に単一人種の国だからこそ、人種差別のことに対して、アメリカより鈍感な所があったり、アメリカのような深刻で根深い人種差別のような問題はあまりないと思います。(中略) だからこそ、僕をいじっている友達も、それほど言葉の中に悪意はないのかもしれない。(中略)

来年には東京でオリンピックが開催されます。今までにない程の外国人が日本を訪れます。日本代表の中には外国人と日本人のハーフの選手も活躍するでしょう。日本人もこれからもっと多くの外国人と触れ合っていく機会が増えていくことになりそうです。そうしたら日本人である事をいまいよもっと意識することが出来ると思います。

僕は、半分日本人であることに誇りを持っているし、半分アメリカ人である事にも誇りを持っています。全ての人が自分であることに誇りを持って、見た目だけで人を判断することのない社会がもっと進んでくれたら良いなと思いました。

—— 作文「僕が感じてきたこと」より抜粋

優秀賞

「『普通』とは何か」

厚木中学校3年 田代 弥生さん

概要

コミュニケーションやじっとしていることを苦手とする発達障がい・ADHDがある兄を、「普通じゃない」と思っていた田代さん。原因が分からないまま兄はみんなと違うと感じていた小学2年生の頃、母親の問いをきっかけに、「普通とは何か」というテーマと向き合い、自分なりの答えを見つける。日常的に使う「普通」という言葉には、自分の一方的な希望が潜んでいるのではという疑問を投げ掛けている。

—— 作文「『普通』とは何か」より抜粋

私

は「なんで兄は普通じゃないの。」と疑問を抱いたことがあります。その時に母に「じゃあ、普通って何?」と問われ、私は初めて、「普通とは何か」を考えました。そして、普通とは何かを知るために、「普通じゃない」と思った原因となる、発達障害に関する本を読み、「障害を持っているのも、他人と何も変わらない」ことに気がついたのです。今まで自分が「普通」だと思っていた人たちが「異常」だと思っていた兄が実は何も変わらないことが分かったとき、私は、私の中の「普通とは何か」の答えが分かったような気がしました。私が今まで持っていた「普通」という概念は、自分がそうあってほしいと願ったただの「理想」だったので。



中学生の声

市では、中学生の人権作文を毎年募集しています。今年の応募作品数は939点。受賞作品の中から、多くの人が通り過ぎてしまう「当たり前」に疑問を抱き、立ち止まって考えた中学生たちの声を紹介します。

市HPで受賞作品の全文を公開 [厚木市](#) [中学生人権作文](#) [検索](#)

作文を展示する企画展を開催 (詳しくは8面参照)

人を傷つける言葉は、
だぐその言葉を比喩が
言わなければ、
言葉の暴力で
傷つく人は、いなくなる



筆者の声

言葉を使う自分たちが、
考えなくちゃいけないこと

5年経った今でも鮮明に覚えているくらい、衝撃的な出来事でした。去年もこのことを作文に書いたのですが、まだ妹の歯が生え変わっておらず、母が傷つくかもしれないと思い応募しませんでした。今回賞をもらって、母は「考えて成長するきっかけになったのなら良かった」と言っていました。僕も心ない言葉で傷ついたことがあるし、最近では大人がいじめをする事件を見て、人を傷つける言葉はなくならんないかなと思いました。言葉を使う人の意識が変わることで、言葉の暴力がなくなれば良いなと思います。



「妹は今年大人の歯が生えてきた」と笑顔で話す田代さん

市長賞

「ことば」

小淵中学校3年 田中 琳駈さん

概要

田中さんの8歳下の妹の歯は、エナメル質が少ないため強く、薬を塗る必要があった。田中さんが小学4年生の頃、薬で黒くなった妹の歯を見た人に心ない言葉を言われた出来事から、家族が感じた悲しみと、言葉の暴力について考えたことをつづっている。見た目では分からない違いに苦しむ人がいること、そして自分の知らない世界を想像する力が優しさにつながることを伝えている。

あ

れから母は妹が笑うと口の前に手をやる様になった。歯が見えないように。僕の七五三の写真はリビングに飾られていたが妹の七五三の写真が出来上がってからは、外された。もちろん満面の笑みの妹の写真も飾ることはなかった。幼稚園に入園した時も前歯が黒い事でいじめられるのではないかと、とても心配していた。(中略)

—— 作文「ことば」より抜粋

その時に母に、
「じゃあ、普通って何?」と問われ、
私は初めて、「普通とは何か」を
考えました。

筆者の声

自分と変わらないと気付いて、納得した

なぜ兄が普通でないのか聞いた時、私は兄が周りと違う理由が分からず、混乱していました。発達障がいの本には「ADHDのあるAくんは、片付けが苦手です。どこに片付ければいいのか教えてあげましょう」など、周りに求めることが分かりやすく書いてありました。片付けのやり方が分からなかったら私だってできないなと思った時、何も変わらないのだと気付きました。誰にでも苦手なことはあって、それは一人一人違って当然です。障がいを知ることで納得して、安心できることがあると、多くの人に知ってほしいです。



「友達と話す時も意味を考えて『普通』という言葉を使いたい」と田代さん



私が中学生の時、担任が「転校生はピアスを着けているが、おうちの事情なので何も言わないように」と生徒に申し渡してから、扉を開けた。やって来たのは違う国から来た女の子だった。あの時、私たちの扉も同時に開いたように思う。違う文化の子がクラスにやって来たことに最初は興奮したが、徐々に慣れて、ピアスがあるのがなんだろうがどうでもよくなった。

他のクラスにも外国からやって来た転入生や、ただ肌の色が違うだけで日本人の子もいた。友達の家を招かれて食べた手作りのキムチと冷麺がおいしかった。その後も、アルバイト先でブラジル人とラオス人の子とでも仲良くなった。どちらも、今でも大事な友人だ。

彼ら、彼女らと親しくなると、無視やいじめ、差別的なことを言われたことがあると打ち明けられた。世の中は「多種多様ハッピー」なんかじゃなく、偏見も

差別もあり、他ならぬ私だって、何かの色眼鏡で見て彼女らに傷つけたこともあっただろう。性的少数者の人たちもそうだ。私のクラスにもLGBTQの子はいた。いつの間にかうわさになって広まっていた。彼女は毅然としていたが、アウティング、許可なく暴露することは、数年前ある大学生を死に追い詰めたほどにむごい行いなのだ、知ろうと思わなければ自覚すらできない世代だった。1990年代から2000年代が青春期という若い年代であっても、その程度なのだ。

私たちはたぶん、私も含めて、無自覚にあるいは「善かれ」と思って、もしくは「伝統」を守ろうとして、誰かに無邪気な悪意をぶつけ、誰かを否定し、その人の持つ大切なものを潰そうとした。「理解しない方が楽だから人任せ」と加担してきた人もいるだろう。時代が変わったのではない。外国から来る人た

ちも、LGBTQも、障がいのある人だって、これまでに大勢いた。ただ今までは「彼女らに無視しても問題にしない社会」だっただけだ。これからは違う。彼女らには私たちと何も変わらない血の通った人間だ。言葉や文化、好きになる相手が変わり、育んでくれたのは、他でもない厚木市のこうした環境だ。だからこそ今回の企画をうれしく、頼もしく誇りに思う。

政治状況がきな臭くなるとうと、市民同士の手は離さないでいたい。韓国の友好都市・軍浦市との交流をこれからも続けてほしい。私は、どうかふるさとよ、温かい心を忘れないでほしいという気持ちでいっぱいだ。

自分の中にある偏見に気付くことはとても難しいと私も知っている。きつと怒りをどこにぶつけていいかわからないのだから。でもそれを個人や属性、民族にぶつけないで。

全てを良くする特效薬は残念ながらない。ただ、人は良い方に変われる。理解できなくても存在を認めることはできる。あなたがここにいても私は気にしないと言ふことはできる。あなたが憎みながっている人を前にしたとき、どうかあなたの中にある温もりを思い出してほしい。

【プロフィール】2010年デビュー。18年刊行の『ベルリンは晴れているか』が本屋大賞第3位に輝くなど、幅広い年代から人気を集める。図書展(下欄参照)に深緑さんの選書を紹介。

理解できなくとも、想像していたい

同じ人生を送ってきた人はいない。だからきっと、誰とも、完全には分かり合えない。それでも人は、誰かと手を取り、寄り添い合って生きていく。あなたや、あなたの大切な人が自分らしく生きるために。

12/4~10
は
人権週間

人権を考える催し

人権週間のある12月に、人権や偏見を考える催しを開催します。 **無料**

あつぎヒューマンライツフェスタ
中学生人権作文
朗読

《日時》 12月7日 10時～
《場所》 アミューあつぎ
《内容》 入賞者が作品を朗読
当日直接会場へ。
先着順(10人程度)。
市民協働推進課 ☎225-2215

広報あつぎ連動企画
図書展
～無意識の偏見～

《日時》 12月3～30日
9～19時
《場所》 中央図書館
《内容》 人権に関する図書と
深緑さんの作品や選書
を展示・貸し出し
中央図書館 ☎223-0033

広報あつぎ連動企画 無意識の偏見展

市民の皆さんの経験から集めた言葉を多角的に捉える展示を開催します。
広報課 ☎225-2040



光を使った撮影スポット



6・7面で紹介した作文をパネルで展示



平面や立体で多角的に「言葉」を見つめる

《日時》 12月2～16日 9～18時 《場所》 あつぎ市民交流プラザ
《内容》 市内の中学生による作文の展示や撮影スポットなど

広報課公式ツイッター@AtsugiCity_PRを開設！展示の情報などを発信

豪華アーティストに興奮

「あつぎミュージックフェスティバル」を開催



有名アーティストが圧巻のステージを披露

有名アーティストが出演する「あつぎミュージックフェスティバル」を厚木中央公園で開催しました。6回目の今回は、初めて野外で実施。4千人の観客が出演者の歌やダンスに熱狂しました。イベントは、まちの活性化を目的に市内企業や音楽関係者らでつくる実行委員会が開催。8月の新人シンガー発掘オーディションで大賞を受賞した高橋亜沙さん(21)や厚木に縁のあるSALUSさんなど10組が、会場を沸かせました。来場した佐藤清美さん(28)は「たくさんアーティストを一度に見られてぜひ開放感があった」と話していました。

長年の活動をたたえて

人権擁護委員が法務大臣表彰を受賞

10月に「法務大臣表彰」を受けた市人権擁護委員会の宮田和子さん(74)が、小林市長に喜びを報告しました。人権擁護委員は、差別や虐待のない社会をつくるため、人権相談を受けたり、人権の考えを広めたりする活動をしています。宮田さんは11年にわたり委員を務め、多くの相談や人権侵害の疑いがある事件の調査などを受け持ったことが評価され、受賞に至りました。小林市長は「表彰は宮田委員が長年にわたり活動に取り組んだ結果。今後も人権問題で困っている市民の皆さんの力になっていただきたい」と感謝を述べました。宮田さんは「これからも皆さんに寄り添った活動をしていけたら」と話しました。



表彰状を手にする宮田さん(左)



厚木の玄関口をいつもきれいに

本厚木駅周辺の美化清掃が通算500回

007年に開始。中心市街地の商店会長や自治会員でつくる「市まちなか活性化プロジェクト」と、呼び掛けに賛同した市内企業の皆さんが、商店街や歩道、公園に捨てられたたばこの吸い殻や紙くずなどを拾い集めています。プロジェクトの六ヶ村健三会長(71)は「これまで延べ7400人を超える皆さんに参加していただいた。これからも地域や企業の皆さんと協力し、きれいで魅力ある街にしていきたい」と意気込みを語りました。



ビニール袋を手に持ちごみを拾う参加者たち

街中が劇場に様変わり

「にぎわい爆発!あつぎ国際大道芸」を開催

県内最大級の大道芸イベント「にぎわい爆発!あつぎ国際大道芸」を、11月9・10日の2日間、本厚木駅周辺で開催しました。会場には市内外から約15万7千人の観客が集まり、目の前で繰り広げられる圧巻のパフォーマンスに歓声を上げ、大きな拍手を送っていました。12回目の開催となった今回は、フランスやイギリスなど世界各国の芸人41組が出演。街中に設置した13カ所の会場でジャグリングやパントマイムなどを披露し、観客を魅了しました。家族と来場した西美香さん(39)は「子どもと一緒に楽しめるので毎年家族で来ている。迫力のある芸を間近で見られるのが魅力的」と笑顔を見せました。



迫力のある芸に大きな拍手が起こった

アツギ X NEW ZEALAND ホストタウン通信



太鼓を通じて交流する保存会と選手

車いすラグビーNZ代表と白龍太鼓の交流

キャンプのため市内に滞在していた車いすラグビーNZ代表チームと、市の郷土芸能の一つ「相模国飯山白龍太鼓保存会」が10月に荻野運動公園で交流しました。

交流会は、キャンプ初日の歓迎会で白龍太鼓の演奏を聞いたチームのリクエストで実現しました。当日は、保存会のメンバーが選手に太鼓のたたき方を手ほどき。日本文化を体験したいと望んでいた選手たちは、慣れない手つきながらも演奏を楽しみました。続いて、保存会のメンバーが競技用車いすに乗り、選手と共にボールを追い掛けるなどして交流を深めました。

NZ代表チームは2020東京パラリンピックに出場します。市では今後もチームの事前キャンプに合わせ、小・中学校でのパラスポーツ体験会や交流会などを実施していきます。

2020東京オリンピック・パラリンピック(東京五輪)に向けて、ホストタウンとなったニュージーランドとの交流事業を紹介します。

ラグビー・ワールドカップで、初の決勝トーナメント進出という快挙を成し遂げた日本代表。海外出身者も多く、文化の異なる選手たちが強く結束し「ワン・チーム」として強豪国相手に全力で戦う姿には、込み上げてくるものがありました。私たちの住む社会にも、外国籍の方はもちろん、子どもや高齢者、障がいがある方など、さまざまな人が暮らしています。最近では「LGB



12月7日のヒューマンライツフェスタで中学生の人権作文などを表彰する

実現するため、市では「市人権施策推進指針」を改定しました。指針は、人権問題の多様化や社会情勢の変化に対応させています。今後も私たちを取り巻く社会は常に変化し、大きく変わっていくことが間違いありません。その中で市民の皆さん一人一人が自分らしく暮らし「ワン・チーム」な厚木市で在り続けるよう、市政に取り組んでまいります。

TQ」という言葉も認知され、セクシャル・マイノリティについて考える機会も増えています。ひと昔前と比べると、より個性が尊重されるようになった現代。それぞれ違った個性を持つ皆さんが自分らしく暮らすためには、お互いの違いを理解し、歩み寄ることが大切です。そんな社会を

Q Zoom Up

30施策のうち17が「順調」 施策評価の結果まとまる

施策評価は、将来のまちの方向性を定めた総合計画「あつぎ元気プラン」の進み具合を検証するため、毎年実施しています。市では、評価の結果を分析し、市民の皆さんに寄り添ったより良いまちづくりを進めていきます。

施策評価は、市の施策や事業に対する市民の皆さんの満足度を聞く「市民満足度調査」の結果と、保育施設への入所率やごみの資源化率など各施策の達成率を点数化し、進捗状況を検証するものです。本年度は総合計画に定める30の基本施策のうち、17施策が「順調」、11施策が「おおむね順調」、残り二つが「やや遅れ」と評価されました。

災害対策の評価が上昇

結果の中で特徴的だったのは、基本施策の一つ「命と暮らしを守る社会の



8月末に完成したあさひ公園地下の雨水貯留施設。10月の台風19号の際に効果を発揮した

実現」の評価項目のうち、「災害に強いまちづくりの満足度」です。調査では、「満足」「やや満足」と回答した割合が、昨年から2割上昇し、全世代で満足している割合が高いという結果になりました。

市では8月末に、大雨による浸水被害を防ぐための雨水貯留施設をあさひ公園地下に整備。この他、洪水時の浸水想定を示した洪水浸水ハザードマップを全戸配布したり、防災行政無線の内容が聞ける防災ラジオを有償配布したりするなどの取り組みを進めてきました。満足度の上昇は、防災への積極

的な取り組みを市民の皆さんに実感していただいた表れだと考えられます。一方で、「防災訓練の内容をもっと充実させてほしい」「指定避難所の場所が分かりにくい」など、さらなる対策を求める声もありました。

満足度の向上が課題に

17施策が「順調」と評価された中、「新たな戦略による観光のまちの実現」と「安心して働くことができる社会の実現」は、満足度の低下が大きく影響し、「やや遅れ」の評価となりました。各施策が主に対象としている年代では一

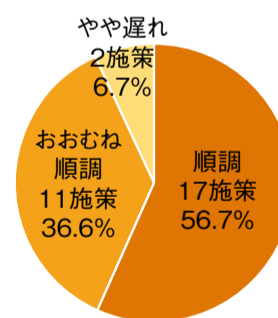


洪水時の浸水想定区域を色別にした洪水浸水ハザードマップを全戸配布。避難経路など事前の確認を促した

30施策を「順調」「おおむね順調」「やや遅れ」「遅延」の4段階で評価

- 《評価対象》
 安心政策 = 子育て、福祉、保健・医療、(9施策) 安心・安全など
 成長政策 = 学校・社会教育、文化・スポーツ振興など (5施策)
 共生政策 = 自然環境、温暖化防止、ごみ対策など (5施策)
 快適政策 = 中心市街地、道路整備、商業の活性化、産業、観光など (7施策)
 信頼政策 = シティプロモーション、市民参加・協働、行財政改革など (4施策)

施策評価の結果

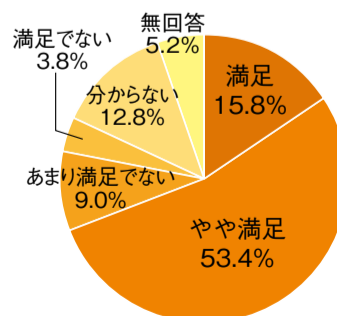


※遅延と評価された施策はなし

市の取り組み全般に対する総合満足度

《調査期間》6月4～24日
 《対象》住民基本台帳を基に無作為抽出した市内在住の18歳以上4千人(うち530人は継続調査者)
 《調査項目》全37項目①子育て、福祉、保健・医療(5問)②市民生活、安心・安全、防災(7問)③教育、生涯学習、文化、スポーツ(6問)④環境、河川(6問)⑤都市、道路・交通(4問)⑥産業、労働(4問)⑦行政経営(5問)

市民満足度調査の結果



- 上位3項目
 ①資源とごみの分別
 ②環境美化の推進
 ③消防・救急体制の充実
- 下位3項目
 ①土地利用による魅力的な拠点づくり
 ②就労・雇用環境の改善
 ③多文化共生社会・平和な社会の実現

施策評価と満足度調査の詳しい結果は市HPに掲載。

市民生活のさらなる向上を

現在の総合計画は、2020年度に満了を迎えます。今回の評価結果を分析し、「あつぎ元気プラン」の最終年度に向け、市民の皆さんがより快適に暮らすための事業に取り組みを進めます。現在、市では新たな総合計画の策定を進めています。市民の皆さんがこれからも住みたいと思えるまちであるために、より多くの声を取り入れ、将来を見据えたまちづくりを進めていきます。

企画政策課 ☎225-2410

市民参加型外部評価の結果

市では、学識経験者や市民の皆さんが市の事業を評価する外部評価を毎年実施しています。本年度実施した8事業の評価結果がまとまりました。詳しい結果は市HPに掲載。

評価結果	対象事業
拡大	中学校少人数学級実施事業費
現行どおり	幼稚園型一時預かり事業補助金 登校支援推進事業費
要改善	障がい者雇用奨励交付金 ひとり暮らし高齢者等支援事業費 高齢者バス割引乗車券購入費助成事業費 生物多様性生きもの調査推進事業費 農業水利施設改修事業費

※縮小・廃止と評価された事業はなし

行政経営課 ☎225-2160

タウンガイド

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2020年1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ㊚=ファクス番号 ㊚=Eメール HP=ホームページ
 ㊚=マイタウンクラブ(㊚印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「㊚印」と記されたものは、申し込み可) 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「秋空に咲くコスモス」
 #11月7日撮影
 #コスモス
 #荻野運動公園
 #niceatsugi
 広報課公式Instagramで公開中



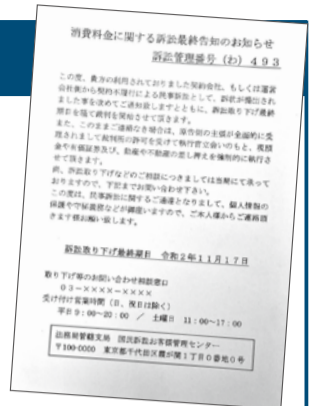
それ、詐欺かもしれません!

ハガキやメールでの架空請求が急増しています。身に覚えのない物が届いたら…

- ① まずは **無視する**
- ② 絶対に **連絡しない**
- ③ 不安なときは **聞いてみる**

消費者ホットライン ☎188に相談

消費生活センター ☎225-2155



公的機関を語るこんなハガキが届いたら要注意

①ゲーム機②パソコンキットを使用し、プログラミングを学ぶ。市内または秦野・伊勢原市に在住在学の小・中学生各回20人。無料。
 ③12月2日からタイムカプセル(株) ☎058-214-9760へ。先着順。④観光振興課 ☎225-2820。

斎場施設見学会

12月18日、10時30分～12時。市斎場。施設見学と葬儀の説明。定員30人。無料。⑤12月1～17日に市斎場 ☎281-8595へ。先着順。



12月は地球温暖化防止月間

再生可能エネルギーの利用や省エネ機器の導入が、温暖化防止につながります。

- スマートハウス導入奨励金 《交付金額》①太陽光発電1キロワット当たり1万円(上限3万円。5キロワット以上で2万円加算)②蓄電池5万円③エネルギー管理(HEMS)1万円④燃料電池5万円⑤太陽熱利用5万円。
- ゼロ・エネルギー・ハウス導入奨励金 《対象》国の補助金を使って建てたゼロ・エネルギー・ハウス 《交付金額》10万円。

いずれも対象は2019年2月21日～2020年2月15日に設置完了したもの。⑥3月16日までに直接、環境政策課 ☎225-2749へ。詳しくは市HPに掲載。

社会保険料控除の対象となる保険料額の通知

2019年中に納めた①国民健康保険料②後期高齢者医療保険料③介護保険料は、所得税や市・県民税の申告時に社会保険料控除の対象となります(対象者には1月中旬に通知を送付)。⑦国保年金課① ☎225-2123② ☎225-2223③介護福祉

課 ☎225-2393。

12月11～20日は年末の交通事故防止運動

年末は、交通量や飲酒の機会が増え、事故の多発が予想されます。市民一人一人がルールへの遵守とマナー向上に取り組み、事故を防ぎましょう。

交通安全市民総ぐるみ大会

12月7日、13時30分～16時。文化会館。交通安全功労者などの表彰と交通事故被害者遺族による講話。定員350人。先着順。

年末の交通事故防止パレード

12月14日、13時～14時30分。厚木中央公園～あつぎ大通り～本厚木駅前～厚木一番街～厚木中央公園をパレード。

いずれも⑧当日直接会場へ。⑨交通安全課 ☎225-2760。



民生委員・児童委員の一斉改選

高齢者や障がい者、児童の問題などの相談に応じる民生委員・児童委員として、市内では283人が12月1日付けで厚生労働大臣から委嘱を受けました。福祉に関して困り事があれば、気軽に相談してください。個人の情報は守られます。お住まいの区域の担当委員は、福祉総務課にお問い合わせください。⑩福祉総務課 ☎225-2200。

みんなの声で 作るまち

《意見交換会》
 ■厚木北児童館の再整備
 12月12日、19～20時。厚木シティプラザ。⑪当日直接会場へ。⑫青少年課 ☎225-2581。

自然観察会「鳥好き大集合・水辺の鳥探し・絵コンテ」

12月22日、14～16時。善明川周辺。鳥を観察して自然に親しむ。定員30人。無料。⑬12月1～21日にあつぎ郷土博物館 ☎225-2515へ。先着順。⑬192562

アミューあつぎハンドメイド&クラフトマルシェ

12月28日、10～15時。アミューあつぎ。約20店舗によるアクセサリや洋服、雑貨などの手作り品の販売、ワークショップなど。⑭商業にぎわい課 ☎225-2834。



あつぎ青春劇場落語会

12月28日、11時～12時30分。アミューあつぎ。出演は柳家小太郎。定員100人。500円。⑮当日直接会場へ。

やっぱり家がいい!

～医療・介護・生活支援を考える～

市内の医者などの専門職の皆さんが、ストーリー仕立てで在宅介護・医療を解説します。

【日時】2月9日 13時30分～15時
 【会場】文化会館
 【対象】市内在住在勤在学の方350人

⑯福祉総務課地域包括ケア推進担当 ☎225-2047

無料



⑰電話またはハガキ、ファクス、Eメールに〒住所、氏名、電話番号、参加人数を書き、1月31日(必着)までに〒243-8511福祉総務課地域包括ケア推進担当 ☎221-2205・㊚1900-08@city.atsugi.kanagawa.jpへ。先着順。⑰192073

11月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆技術の伝承は、地域の貴重な財産だと思う/20代女性
 ◆市の政策や事業に市民の意見が反映されるのは良いこと/40代女性
 ◆分散されていた公共施設がまとまることで便利になってほしい/70代女性
 ◆自然豊かな厚木で秋の紅葉を楽しみたいと思った/60代男性
 ◆住んでいても知らなかった厚木の秋の魅力を知れた/40代女性
 ◆大道芸は毎年楽しみにしている。今年も迫力ある芸人の演技をたくさん見たい/50代男性

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集
 厚木市 インターネットモニター 検索

⑱広報課 ☎225-2043

編集後記

今まで、自分の常識を相手に押し付けよう気をつけてきたつもりですが、取材を通じ、私が想像もしなかった点に生きづらさを感じている人がいることを知りました。アンケートや意識調査では、「偏見や差別をしたことはない」という回答が過半数を占めています。「自分に偏見はない」と感じている一人一人の「普通」が誰かを追い込むことのないよう、私も相手への想像力を持って接したいと思いました/前場

ATSUGI BRILLIANT STORY 2019

あつぎブリリアントストーリー

2月14日まで
16時30分～24時

音と光の調和、心躍る夜に

今年も華やかなイルミネーションが本厚木駅を彩りました。テーマは「Atsugi Music Night」。あゆコロちゃん率いる音楽隊が「あつぎジャズナイト」を再現し、音と光のハーモニーを奏でます。写真を撮ったり音楽を楽しんだり、ちょっぴり心躍る夜をお届けします。

☎商業にぎわい課 ☎225-2840



イルミネーションは電子看板「あつナビ」とコラボレーション

楽しみ方いろいろ

イルミネーションを撮ってみよう

光り輝くイルミネーションは絶好のフォトスポット。いろいろな撮影方法を試して思い出の一枚を残しませんか。

市公式ハッシュタグの「#niceatsugi」を付けてSNSに投稿してみよう。



スマホで記念撮影♪



小物を使って幻想的な一枚に

学生企画
イベント



題名のないクリスマス

市内の5大学に通う学生たちが企画したクリスマスイベントです。

日時 12月22日 11～15時

会場 本厚木駅周辺

内容 ミニゲームラリー(中学生以下)、ツリーの装飾、缶バッジ作り、東京農業大学のリース作り教室

費用 無料

受け付けなど詳しくは

[厚木 題名のないクリスマス](#) [検索](#)

寒い冬も元気に

あつぎにぎわい
アドベンチャー隊
寺濱 和華さん(19)



イベントで街が活気づけばと思い企画しました。当日気軽に参加できるゲームや企画をたくさん用意したので、家族や友達とぜひ立ち寄りみてください。

☎商業にぎわい課 ☎225-2840

自然歳時記

● キタテハ ●
タテハチョウ科

前羽は22～34mmほどの大きさ。夏型と秋型があり、秋型は赤褐色で鮮やかな色。ウインターコスモスの花の蜜を吸蜜中。成虫で越冬するチョウの一種で、冬でも暖かな日には飛翔する／飯山の畑で見つけた。 写真・文/吉田文雄



ヒメアカタテハが、水平に羽を開き日光浴をしていた。一度通り過ぎたが、また見たいと思い同じ場所に戻ってみた。しばらく見ていると、グライダーのように飛翔したキタテハが飛んできた。人の気配を感じるそぶりもなく、すぐ近くの花で蜜を吸い始めた。冬を越すためなのか、体と羽の間に生えたふさふさとした

毛に包まれて温かそうだった。暖かな太陽の光を背に受けると閉じていた羽が開き、いつまでもじっと蜜を吸っていた。太陽がキタテハの体で隠れる位置までそっと移動して写すと、チョウが黄金色に光った。太陽の光で隠れている頭部は、花弁の中にきれいに映っていた。元気に冬を越し、春に会えるのが楽しみだ。

厚木市の人口
(11月1日現在)

世帯数 10万471世帯 (前月比94世帯増)

人口 22万4687人 (前月比10人増) 男11万6268人・女10万8419人